

史跡

【佐屋代官所址】

(愛西市指定文化財)

佐屋代官所が置かれていたことを伝える石碑です。この代官所は、江戸時代に伊勢国との玄関口であるこの地域(109村)を支配するために尾張藩が配置しました。

1781(天明元)年に代官所が置かれ、明治時代初期までは明治政府の機関として機能していましたが、1872(明治5)年に廃止されました。



建造物

【鈴木家住宅】

(国登録有形文化財 / 非公開)

明治から昭和初期にかけて活躍した政治家、鈴木仙太郎の住宅です。主屋は、1890(明治23)年に建築され、都市型住宅の造りでありながら、郡屋には書院造や寺社建築の手法が取り入れられています。

また木造トラスが採用され、洋式の小屋組が用いられています。住居のための建物というよりも行事や政治活動にともなう集会・集会の利用を想定して建築されたと考えられます。主屋のほか、蔵や塀と合わせて国の登録有形文化財に登録されています。なお、通常は非公開です。



石碑

【懷恩碑】

愛西市佐屋町出身の政治家、加藤高明(1860~1926)の記念碑です。

加藤高明は、佐屋代官所下級役人の服部重文の次男として生まれました。5歳のときに父親が鶴多須代官所(愛西市鶴多須町)への転勤になったため引越し、その後、加藤家の養子となり、上京後に『中庸』の一節を基に高明と改名しました。衆議院議員として政界に進出後は要職を歴任し、1924(大正13)年に愛知県出身者初の内閣総理大臣となり、普通選挙法や治安維持法を成立させました。しかし、1925(大正14)年に議会途中に倒れ、翌年死去しました。



佐屋川(廃川)



史跡

【東海道佐屋路佐屋三里の渡址】

(愛西市指定文化財)

佐屋路の佐屋と桑名を結ぶ三里の渡し(約12km)を伝える石碑です。

佐屋からの桑名までの所要時間は約2時間、桑名から佐屋までは約3時間要したとされています。

1698(元禄11)年に旅人の渡船利用を津島から佐屋に変更したこともあり、多くの旅人が利用したといわれています。

佐屋から桑名へ向かう場合、現在は陸地になっている佐屋川をとおり、木曾川を経由して桑名に向かいます。石碑より西側に佐屋川が流れていましたが、明治時代の木曾三川分流工事によって廃川となりました。



史跡

【水鶏塚】

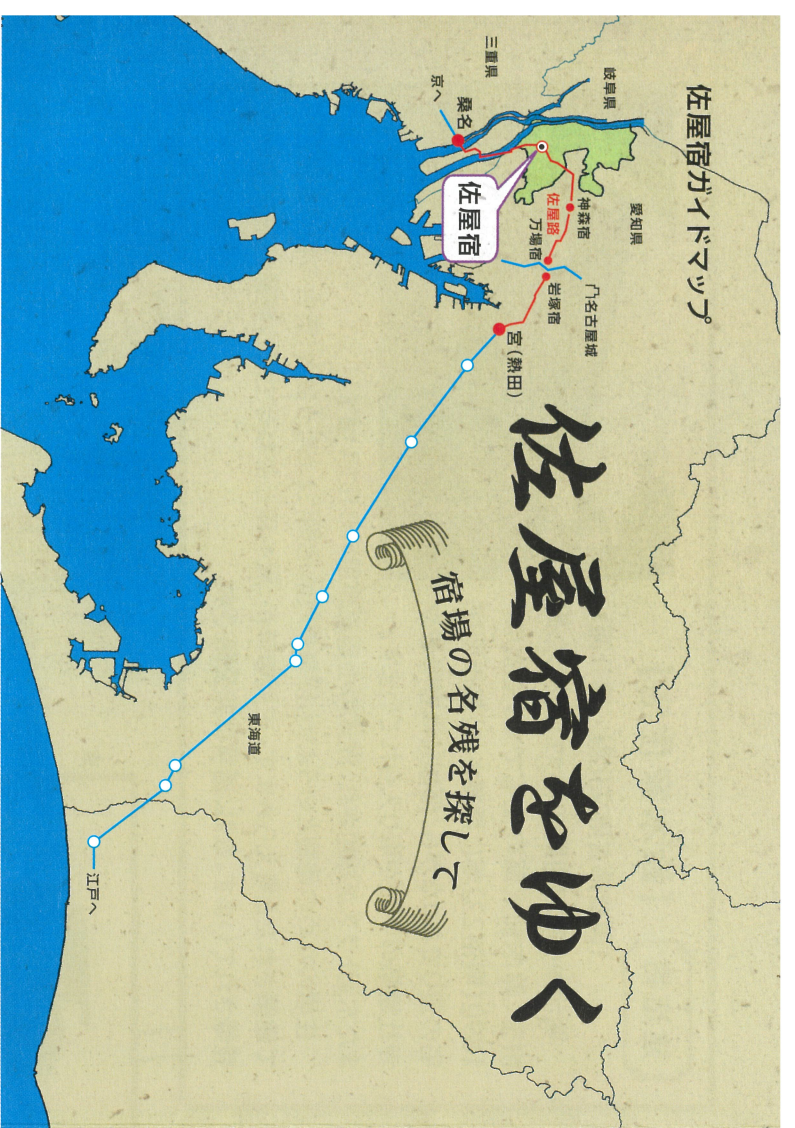
(愛西市指定文化財)

1694(元禄7)年5月に芭蕉が佐屋で宿泊した際に「水鶏鳴と人の云えはや佐屋泊」と句を詠みました。この石碑は、芭蕉の40回忌にあたる1735(享保20)年に地元の人を中心に建立した記念碑です。また、塚の周囲には、地元の人からの句碑も立てられました。

※水鶏：ツル目クイナ科の鳥。水田や湿地などの草むらに営巣する鳥で、俳句では初夏(5月)の季語となっている。



※掲載している建物は、個人および団体所有です。敷地内や建物に立ち入らないでください。



愛西市とは

愛西市は愛知県の西部にあり、「平成の大合併」によって2005(平成17)年に海部郡佐屋町、立田村、八開村、佐織町が合併して誕生しました。市の大部分は海水面よりも土地が低く、いわゆる「海抜ゼロメートル地帯」の水郷地帯です。このため水害に悩まされた地域でもありますが、豊かな水と土壌を生かした農業地帯でもあります。

佐屋宿は愛西市南部の佐屋地区(旧佐屋町)にありました。

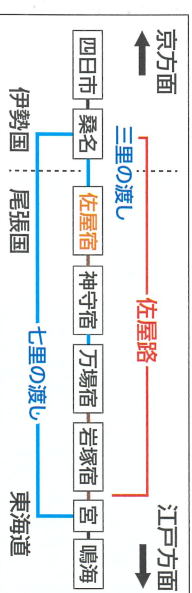
佐屋宿

佐屋宿は、江戸時代初めに東海道の脇往還(バイパス)として整備された佐屋路の宿場です。東海道の宮(現愛知県名古屋(市)ー桑名(現三重県桑名市)間は「七里の渡し」と呼ばれる海上ルートでした。しかし、悪天候時や舟に弱い人などは脇往還の佐屋路を利用しました。宮から佐屋宿間は主に陸上を移動し、佐屋宿から桑名間は舟で移動しました(三里の渡し)。

しかし、三里の渡しも気象条件等によって舟が運航できないこともあり、人や物が滞留することもありました。このため、佐屋宿は他の佐屋路の宿より規模が大きく、1843(天保14)年には表のような規模がありました。

人々の往来で賑わっていた佐屋宿ですが、宿場の西を流れていた佐屋川に土砂が堆積し、舟の運航が難しくなりました。そのため、宿場を移転する計画もたびたび考えられました。

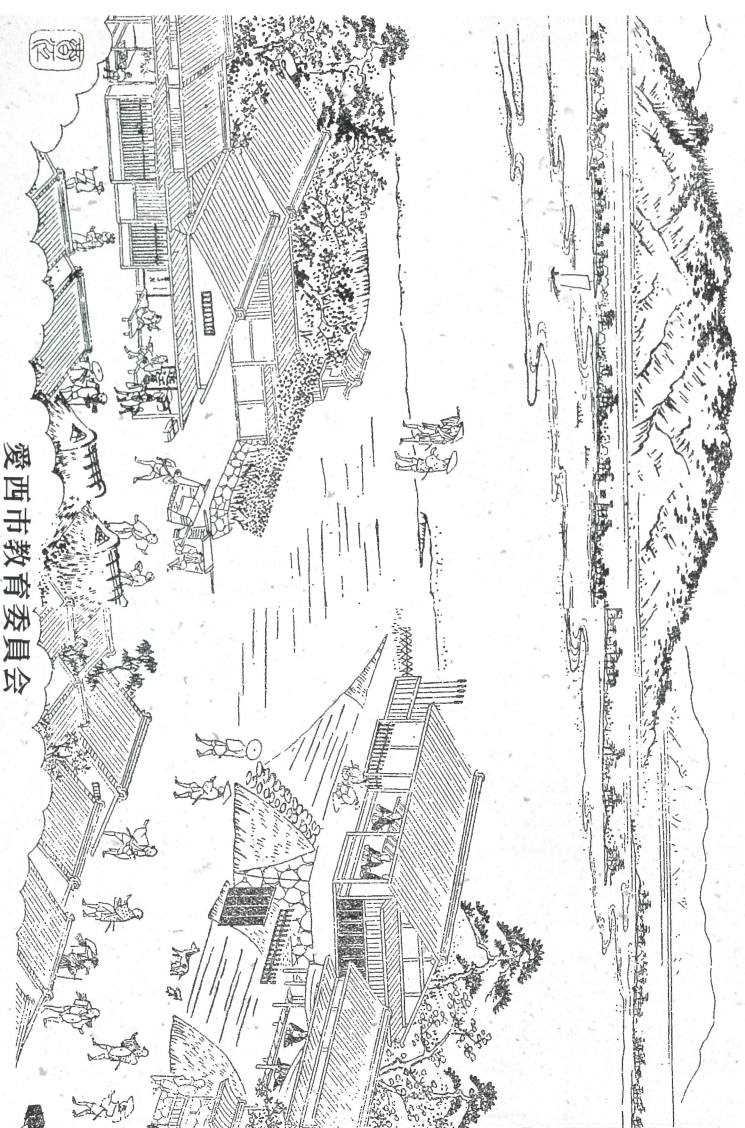
明治時代になると1872(明治5)年に宿駅制度が廃止となり、公認の宿場としては終わりました。また、1901(明治34)年の木曾三川分流工事により佐屋川が廃川、開発が進んだことで景観も大きく変わりました。



佐屋路の宿場規模比較表

| 種類 | 佐屋宿 | 神守宿 | 万場宿 | 岩家宿 |
|------|--------|------|------|--------|
| 本陣 | 2軒 | 1軒 | 1軒 | 1軒 |
| 脇本陣 | 2軒 | 0軒 | 0軒 | 0軒 |
| 旅籠 | 31軒 | 12軒 | 10軒 | 7軒 |
| 宿の人口 | 1,260人 | 812人 | 672人 | 1,038人 |

1843(天保14)年「佐屋路宿村大振興」より



佐屋宿等に関する路年表

| 西暦 | 和暦 | 事 | 柄 |
|------|------|-----------------------------------|---|
| 1615 | 元和元 | 徳川家康、大阪夏の陣のため佐屋より乗船 | |
| 1617 | 元和3 | 初代藩主徳川義直、鷹狩時の休憩所として佐屋御殿を建設* | |
| 1634 | 寛永11 | 3代將軍徳川家光、上洛のため通行 | |
| 1653 | 承応2 | 佐屋宿を設置 | |
| 1666 | 寛文6 | 佐屋路を設置 | |
| 1672 | 寛文12 | 吉良義央、勅使下向の打合せ帰路で宿泊 | |
| 1687 | 貞享4 | 芭蕉、帰郷のため通行 | |
| 1694 | 元禄7 | 芭蕉、佐屋の山田家に宿泊 | |
| 1695 | 元禄8 | 佐屋奉行所設置 | |
| 1720 | 享保5 | 6代藩主継友、伊勢神宮参拜のため佐屋より乗船 | |
| 1722 | 享保7 | 藩主継友、尾張津島天王祭観覧のため佐屋御殿に宿泊 | |
| 1726 | 享保11 | 佐屋奉行所廃止 | |
| 1735 | 享保20 | 水鶏塚建立 | |
| 1772 | 安永元 | 9代藩主宗睦、鷹狩のため佐屋御殿で休憩 | |
| 1781 | 天明元 | 佐屋代官所設置 | |
| 1802 | 享和2 | 滝沢馬琴、佐屋を通行 | |
| 1805 | 文化2 | 伊能忠敬、佐屋を通行 | |
| 1826 | 文政9 | シーボルト、佐屋を通行 | |
| 1860 | 万延元 | 服部総吉(加藤高明)生まれる | |
| 1868 | 慶応4 | 東征総督有栖川宮熾仁、佐屋を通行 | |
| 1868 | 明治元 | 9月 明治天皇、佐屋を通行 12月 明治天皇、佐屋宿にて宿泊 | |
| 1869 | 明治2 | 明治天皇、佐屋宿にて休憩 | |
| 1871 | 明治4 | 佐屋代官所廃止。佐屋邑宰所設置 | |
| 1872 | 明治5 | 佐屋邑宰所から佐屋出張所となる | |
| 1872 | 明治5 | 佐屋路・佐屋宿廃止。佐屋出張所廃止 | |
| 1876 | 明治9 | 伊勢暴動 | |
| 1891 | 明治24 | 濃尾地震 | |
| 1901 | 明治34 | 木曾三川分流工事により佐屋川廃川 | |

* 諸説あり

建造物

【明治天皇佐屋行在所の門】

(加藤五左衛門本陣の門)

(市指定文化財／公開)

足をのびして



佐屋宿町並み復元地図について

「佐屋宿町並み復元地図」は、令和2年度現在使用されている都市計画基本図に「明治天皇東幸二付提出ノ佐屋宿図」と「佐屋宿古図」に記載されている主な建物を表した地図です。

佐屋路に面している建物は、『明治天皇東幸二付提出ノ佐屋宿図』(明治元年)、その他の建物は『佐屋宿古図』(幕末に描かれた図を昭和初期に複写)を基に掲載しています。このため、幕末から明治元年にかけての建物が混在して記されています。なお、個々の家屋については除外しています。

表紙下半:『尾張名所図会』『佐屋驛渡口』図より

佐屋宿をゆく ~宿場の名残を探して~

